

人間

ギャラリー

マチに生きる

人のふいぢ

12月1日〜12月15日届出分

友達のように同じ目線で話をする

豊丘 松田和夫さん（75歳）



「保護司は、保護司になって保護司になる。この意味は、辞令を受けてから一生懸命勉強して、一人前の保護司になること」と松田さん。

十月二十一日に、札幌市で保護司功労により法務大臣表彰を受けた。昭和五十八年から苫小牧地区保護司会厚真分区分の保護司となり、二十年以上その任に就き、現在、苫小牧地区副会長、厚真分区分長の要職に就いている。

「保護司の仕事は、社会のルールに反した人が一般社会に復帰する手助けをするのが仕事」と語る。民生委員・児童委員としても、

平成十三年まで三十年間務めた。「民生委員は厚生保護、保護司は更正保護の違いはあるが、どちらも困っている人を助けることでは同じだね」また、「友だちのような目線で対象者と接し、心を開いて

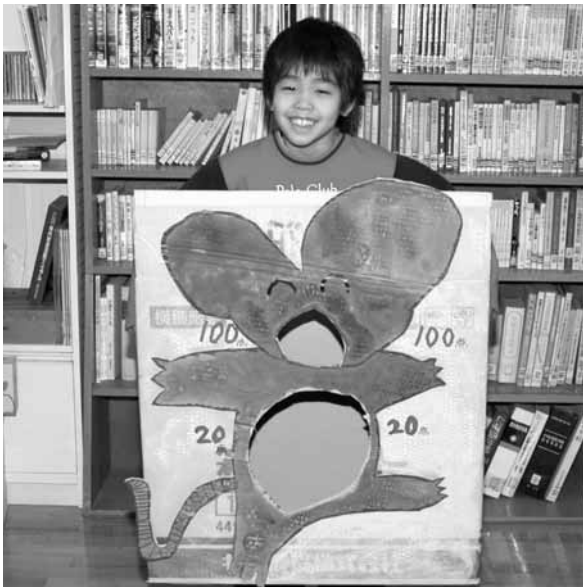
マチの善意

くれるのを待つことを心掛けています。一番うれしいことは、更正した姿を見ることがですね」と話すその目はやさしい。

昔は、保護司は陰で活動することが主体だったが、近年は、犯罪のない社会、社会を明るくする運動に力を入れていると言う。

「青少年の健全育成は、各団体でやっているが、目的は同じなので、連携・協力してひとつにまとめて活動できれば」と話す。

本業の農業のほかに、様々な年の活動に対して、各団体・機関から、数え切れないほどの感謝状や表彰状を受け取っている。松田さんに趣味を聞いたところ、「長い間仕事一本だったから、これから何か考えなければね」と顔がほころんだ。



とみ の しょう ねん
富野小 3年
み よし ひろ し
三好 洋志く ん (8)
「ネズミの的を作りました。12月17日の富小祭り
で使います。みんな楽しんでくれるといいな…」



ぼくわたしの作品



かる まい しょう ねん
軽舞小 4年
きく ち やよい
菊池 弥生ちゃん (9)
「ウサギのすごろくです。大きく作れたし、色の
組み合わせもきれいにできたので上出来です！」

ぼくの・わたしの
クラス自慢

ともだちっていいな



紹介してくれたのは…

厚南中学校 2年生の皆さん
(書いてくれたのは) 青木 誠くん

その44 厚南中学校



ぼくたちの学級の良い所は、なんにでも一生けんめいで、明るく、元気で団結力があり、一人一人が仕事に責任を持つところですよ。

休み時間は、みんな仲よく笑いがたえずとてもいごちのよいクラスです。

また、今年の学校祭の演劇では二十人が一つ一つの役割に責任をもちやり通しました。そして、役者という役割にあたった人は、もち前の明るさで役を演じきりみごと最優秀賞を取ることができました。

また、合唱では、二十人の心を一つにしてとてもよい歌になりました。ぼく達はこの学校祭を通しより団結力が高まりました。二年生は、これからの学校の中心となっていくので、これからの学級のよい所をどんどんだしていきたいと思います。